

60分でわかる新約聖書(15) 「テモテへの手紙第一」

1. はじめに

(1) テモテへの手紙第一の位置づけ

- ①2 通のテモテへの手紙とテトスへの手紙を総称して、「牧会書簡」と言う。
- ②パウロは、牧会上の問題を取り上げ、指導者に指示や助言を与えている。
- ③牧会書簡は個人に宛てられたものだが、公に朗読すべきものでもある。

(2) テモテへの手紙第一の執筆経緯

- ①使徒の働きは、ローマの獄中でのパウロの伝道で終わっている。
- ②パウロの晩年に関して、多くの学者は以下のように考えている。
 - *2年後、パウロは獄舎から解放され、ローマ退去を命じられた。
 - *パウロは、ルカとテモテを伴ってエペソを訪問した。
 - *エペソでは、パウロが予期した通りのことが起こっていた。
 - *1テモテの中に書かれた警告は、グノーシス主義に関するものであろう。
 - ・パウロは、コロサイ人への手紙でこのテーマを取り上げていた。
 - *パウロは、エペソでの奉仕を短期間で終え、次にピリピに行った。
 - *エペソ教会を牧するために、テモテを後に残した。
 - *パウロは、すぐにエペソに戻るつもりでいた(1テモ3:14)。
 - *しかし、エペソ教会の状況は、早急な対応を必要としていた。
 - *そこでパウロは、テモテを励ますために、この手紙を書いた。

(3) 執筆目的

- ①大都市の大教会を牧する若い伝道者を励ますこと
- ②偽教師の教えに対抗する方法を教えること
- ③教会内の種々の問題に対する対応策を指示すること

(4) メッセージのアウトライン

- ①若い牧師への助言
- ②偽教師の扱い
- ③教会の指導者の資格
- ④自らの霊的養い
- ⑤禁欲的生活からの解放
- ⑥教会内の人間関係

テモテへの手紙第一について学ぶ。

I. 若い牧師への助言

1. 1テモ1:3~5

1Ti 1:3 私がマケドニアに行くときに言ったように、あなたはエペソにとどまり、ある人たちが違った教えを説いたり、

1Ti 1:4 果てしない作り話と系図に心を寄せたりしないように命じなさい。そのようなものは、論議を引き起こすだけで、神に委ねられた信仰の務めを実現させることにはなりません。

1Ti 1:5 この命令が目指す目標は、きよい心と健全な良心と偽りのない信仰から生まれる愛です。

(1) 偽教師がやって来て、「違った教え」を説くようになる。

①彼らは、「果てしない作り話」や「系図」に関心を向けさせるであろう。

* 「果てしない作り話」は、グノーシス主義の教えであろう。

* 「系図」は、ユダヤ人たちが自分ほどの部族出身か、また祭司、レビ人になる資格があるかどうか、などを論じる際に使ったものである。

②そのようなものは議論を巻き起こすだけで、霊的にはなんの価値もない。

③無益な議論に巻き込まれると、最も重要なことが見えなくなる。

(2) パウロは、「この命令」（聖書の教え）が何を目的としているか再確認する。

①信仰の最終目的は、「愛」である。

②偽教師たちは、目標を見失い、わき道に迷い込み、無益な議論を重ねている。

③目標は、「神を愛し、隣人を愛し、キリストの似姿に変えられていくこと」。

④ガラ5:14

Gal 5:14 律法全体は、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」という一つのことばで全うされるのです。

II. 偽教師の扱い

1. 1テモ4:12~13

1Ti 4:12 あなたは、年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。むしろ、ことば、態度、愛、信仰、純潔において信者の模範となりなさい。

1Ti 4:13 私が行くまで、聖書の朗読と勧めと教えに専念しなさい。

(1) 年が若いからといって、だれからも軽く見られないようにする。

①年のせいで、教えや命令まで軽く見られるようなことが起こらないように。

②当時は、40歳前だと若いと思われた。

③当時のテモテは、30代後半から40代前半になっていたと思われる。

- (2) 行動を通して、他の信者に見本を示す。
 - ①論争によってではなく、実際の行動によって背教者たちを黙らせる。
 - ②具体的には、愛、信仰、純潔の3点に気をつける。

- (3) 聖書の朗読と解き明かしに専念する。
 - ①テモテは、エペソ教会に派遣された使徒職の代理人である。
 - ②聖書の朗読と解き明かしこそ、牧師の第一義的使命である。
 - ③それが実行できないような状況にあるなら、直ちに改める必要がある。

Ⅲ. 教会の指導者の資格

1. 1テモ3:2~4

1Ti 3:2 ですから監督は、非難されるところがなく、一人の妻の夫であり、自分を制し、
慎み深く、礼儀正しく、よくもてなし、教える能力があり、

1Ti 3:3 酒飲みでなく、乱暴でなく、柔和で、争わず、金銭に無欲で、

1Ti 3:4 自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人でなければ
なりません。

- (1) 監督になる資格
 - ①紀元1世紀の「監督」は、今日の牧師のような存在である。
 - ②誰もが霊的指導者になれるわけではない。
 - ③そのためには、自制し、霊的に成長しなければならない。
 - ④教会の成長と健全性とは、監督の資質に依存している。

- (2) パウロは、監督になるための15の実践的な資格を挙げている。
 - ①個人的に非難されるところがない。
 - ②一人の妻の夫である。
 - *結婚関係に忠実である。
 - *独身でもかまわないと思われる。
 - ③自分を制することができる。
 - ④慎み深い。
 - ⑤礼儀正しい。
 - ⑥旅人をよくもてなす。
 - ⑦教える能力がある。
 - ⑧酒飲みでない。
 - ⑨乱暴でない。

- ⑩ 柔和である。
- ⑪ 争わない。
- ⑫ 金銭に無欲である。
- ⑬ 自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている。
- ⑭ 信者になったばかりの人でない。
- ⑮ 教会の外の人々にも評判の良い人である。

*パウロは宣教という視点から、監督職を考えていた。

IV. 自らの霊的養い

1. 1テモ4:14~16

1Ti 4:14 長老たちによる按手を受けたとき、預言によって与えられた、あなたのうちにある賜物を軽んじてはいけません。

1Ti 4:15 これらのことに心を砕き、ひたすら励みなさい。そうすれば、あなたの進歩はすべての人に明らかになるでしょう。

1Ti 4:16 自分自身にも、教えることにも、よく気をつけなさい。働きをあくまでも続けなさい。そうすれば、自分自身と、あなたの教えを聞く人たちとを、救うことになるのです。

- (1) 内に与えられた聖霊の賜物を生かす。
 - ① 霊的な奉仕のためには、聖霊の賜物が必要である。
 - ② 按手を受けた時、預言によって、聖霊の賜物が与えられていることを知った。
 - ③ パウロは、「あなたのうちにある賜物を軽んじてはいけません」と命じた。
- (2) 自らの務めに対して、全力で取り組む。
 - ① そうすれば、だれの目にも進歩が明らかになる。
- (3) 自分自身にも、教えることにも、よく気をつける。
 - ① 公の働きと、私的生活に気をつける。
- (4) 以上のことをあくまでも継続する。
 - ① その使命は、余りにも重大である。
 - ② 自分自身と他の人々の永遠の運命が、その成否にかかっている。

V. 禁欲的生活からの解放

1. 1テモ4:7~8

1Ti 4:7 俗悪で愚にもつかない作り話を避けなさい。むしろ、敬虔のために自分自身を鍛錬しなさい。

1Ti 4:8 肉体の鍛錬も少しは有益ですが、今のいのちと来たるべきいのちを約束する敬虔は、すべてに有益です。

- (1) 敬虔のために自己鍛錬をする。
 - ① 肉体の鍛錬(禁欲主義)ではなく、信仰の成長を促す霊的鍛錬である。
 - ② 鍛錬によって得られた敬虔は、今の命と未来の命を保証するものとなる。
 - ③ クリスマン生活を送るための力は、救いの完成への希望にある。

2. 1テモ5:23

1Ti 5:23 これからは水ばかり飲まないで、胃のために、また、たびたび起こる病気のために、少量のぶどう酒を用いなさい。

- (1) 健康のために、少量のぶどう酒を飲むこと。
 - ① 「大酒飲み」と非難されることを恐れ、水ばかり飲んでいたのであろう。
 - ② テモテは、「自らの身に課した律法」に束縛されていたのであろう。
 - ③ このぶどう酒は、治療目的のためのものである。
 - ④ 善であれ悪であれ、いつか必ず光のもとに出される。
 - * 神を恐れかしこみつつ歩むのが知恵である。

VI. 教会内の人間関係

1. 1テモ5:1~3

1Ti 5:1 年配の男の人を叱ってはいけません。むしろ、父親に対するように勧めなさい。若い人には兄弟に対するように、

1Ti 5:2 年配の女の人には母親に対するように、若い女の人には姉妹に対するように、真に純粋な心で勧めなさい。

1Ti 5:3 やもめの中の本当のやもめを大事にしなさい。

- (1) 年寄りに対して
 - ① 奉仕の大前提は、クリスマンは神の家族だという認識である。
 - ② 年老いた男性に対しては、父親と考えるべきである。
 - * 老人には、父親に対するように教え、勧め、戒めなければならない。
 - * 年寄りは、叱られることを極度に恐れる。
 - ③ 年老いた女性に対しては、母親と考えるべきである。
- (2) 若者に対して
 - ① 若い男性に対しては、すべて兄弟と考えて接すべきである。

*肉の兄弟に対するように、間違いは矯正し、良い点はほめる。

*お互いのことを、対等な関係にあると認識する。

②若い女性に対しては、すべて実の姉妹と考えて接すべきである。

*「真に純粋な心で勧めなさい」

*不純な動機からではなく、相手の最善を考えて行動する。

(3) やもめに対して

①古代社会では、やもめは社会的弱者であった。

②やもめを取り扱う際の原則

*本当のやもめは、敬われるべき存在である。

*やもめに家族(子供か孫)がいる場合、その家族が率先して援助する。

③教会の名簿にやもめとして登録するための条件が、いくつかある。

*60歳以上の身寄りのない婦人

*ひとりの夫の妻であった人

*良い行ないによって認められている人

・子供を立派に育てた人(家庭内での善行)

・旅人をもてなした人(共同体内での善行)

・聖徒の足を洗った人(謙遜な奉仕)

・困っている人を助けた人(弱者への奉仕)

・すべての良いわざに務め励んだ人(信仰の表現)

*若いやもめは、名簿に載せるべきではない。

結論：1テモ3：14～16

1Ti 3:14 私は、近いうちにあなたのところに行きたいと思いながら、これらのことを書いています。

1Ti 3:15 たとえ遅くなった場合でも、神の家でどのように行動すべきかを、あなたに知っておいてもらうためです。神の家とは、真理の柱と土台である、生ける神の教会のことです。

1Ti 3:16 だれもが認めるように、この敬虔の奥義は偉大です。／「キリストは肉において現れ、／霊において義とされ、／御使いたちに見られ、／諸国の民の間で宣べ伝えられ、／世界中で信じられ、／栄光のうちに上げられた。」

(1) 教会の本質

①パウロはテモテに、教会でいかに振る舞うべきかを教えた。

②「神の家」とは「生ける神の教会」のことである。

③教会は、「真理の柱と土台」と呼ばれている。

④当然、教会にしか果たせない役割がある。

(2) 教会の役割

①「**敬虔の奥義**」（啓示された真理）を伝える責任と特権が与えられている。

②伝える内容は3つある。

*キリストは肉において現われた（受肉の真理）。

*キリストの罪なき生涯、十字架の死、復活、昇天

*キリストを信じる信仰の必要性

③キリストは今栄光の座にあって、信者のために執りなしをしておられる。

④その結果、キリストの福音は諸国民の間で宣言され、世界中で信じられるようになった。